

旭川市地域包括支援センター運営協議会 第2回会議録

- ・日 時 令和3年12月22日（水曜日） 午後6時30分から午後8時05分まで
- ・場 所 旭川市職員会館2・3号室
- ・出席者 委員13名
大森委員，岡委員，栗田委員，佐々木委員，千野委員，富田委員，長瀬委員，野坂委員，野嶋委員，橋本委員，浜田委員，松野委員，森田委員
(50音順)
事務局5名
松本福祉保険部保険制度担当部長，登野福祉保険部次長，ほか3名
- ・欠席者 2名（小野委員，島原委員）
- ・傍聴者 なし
- ・資料 次第
審議事項第1号資料
審議事項第2号資料

【会議内容】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事

- (1) 審議事項第1号 令和3年度地域包括支援センター運営協議会の評価方法について
ア 地域包括支援センターの主な業務内容について
資料に基づき事務局から説明

会長	ただいまの事務局からの説明に関して，意見・質問等はないか。
A委員	一般介護予防事業及び任意事業等に係る業務の説明で，「閉じこもり」という表現があったが，「ひきこもり」とは違う意味か。何か使い分けがあるのか。
事務局	特に使い分けはなく，同じ意味で使っている。
会長	他に何か質問はあるか。なければ事務局に引き続き説明を願う。

- イ 評価様式について

資料に基づき事務局から説明

会長	ただいまの事務局からの説明に関して，意見・質問等はないか。 ヒアリングの共通質問については，何か他に聞いたほうがよいのではないかという意見はないか。
----	---

B委員	この共通質問でよいと思う。 業務の取組について、取組内容の成果があれば、それについても記載してもらおうと、よりヒアリングもしやすいのではないか。
事務局	現時点で成果が出てきている内容があれば、その成果を記載できるように記述欄を工夫したいと思う。
会長	他に何か意見等はないか。 なければ、業務の取組について、取組内容の成果を記述できるようにしてもらおうということで、事務局案のとおりということでよいか。
各委員	異議なし。

ウ 評価の方法やスケジュールについて

資料に基づき事務局から説明

会長	ただいまの事務局からの説明に関して、御意見・質問等はないか。
C委員	ヒアリングの前に各包括支援センターの自己評価票等の資料が送られてきて、次回の運営協議会で対面での評価になると思うが、前段として書面だけで把握しきれぬのか不安がある。 また、評価するに当たって、市の方針等を運営協議会の全体の中ですり合わせするみたいなことは必要ではないかと感じているがいかがか。
事務局	今年度第1回目の運営協議会が書面会議であったこともあり、そのときの会議の資料として運営方針、運営要綱、運営業務仕様書を配付し、それをもって内容の御確認をお願いする形になっていたため、直接説明させていただく機会がなかった。 実際のところ、運営方針の内容を運営協議会の場で確認する時間がとれるのかどうか心配なところである。案としては、次回の運営協議会の冒頭で運営方針の内容を簡単に説明した上で、ヒアリングに入っていくということはあるかと思うがいかがか。
会長	C委員のいう運営方針の確認というのは、我々委員が確認するという意味でよいか。
C委員	そのとおり。
D委員	最低限このメンバーが共通理解すべき部分だけでも何か重点的に簡単に説明していただけるだけでもちがうと思う。
C委員	ヒアリングの前段で事足りるようであれば、その時に皆さんですり合わせできればと思う。ヒアリングを受ける側の包括支援センターも緊張感を持っていると思うので、グループごとに評価にばらつきがないように、ヒアリングの前段ですり合わせできるようにしていただければありがたい。

事務局	<p>いずれにしても、次回の会議では、最初の30分ほどは審議事項のほか、何時何分に何処へ移動していただくというようなヒアリングの細かい流れを説明する予定である。その時に、運営方針の概要や説明を補足する時間を取らせていただき、その後ヒアリングや意見交換に流れていくということでもよろしいか。</p>
会長	<p>実際に評価することというのは、包括支援センターの業務が適正に行われているかということと各包括支援センターごとの重点目標に対しての取組をどのように行ってきたかどうかということだと思う。</p> <p>この評価というのは、成績表のように良い悪いを示すのではなく、いかに包括支援センターによりよく動いてもらうかを考えていくことが評価することだと思う。そういった認識に立って評価をしていただければと思う。</p>
B委員	<p>これまでの具体的なヒアリングの流れを示していただくと皆さんがイメージしやすいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>委員は5名、包括支援センターは3～4包括、事務局職員数名をひとつのグループとし、3つのグループに分けてヒアリングを行う。とっかかりがないと進みにくいので、自己評価票の表紙にあるように、事前に包括から共通質問に対する回答や委員と意見交換してみたい内容をあらかじめ記載してもらい、まずはそれについて包括から説明をもらう。</p> <p>そして、それをとっかかりに自己評価票に書いてあることについてのヒアリング、また各委員が感心を持っている内容や不明な点を質問していただき、それに対して包括が回答するという進め方であった。</p>
B委員	<p>当日に説明を受けただけでは、空回りなやり取りになることもありえる。自分たちより詳しい包括を相手にやり取りをするので、こちらも事前にある程度の知識を蓄えていないととんちんかんなやり取りになる。</p> <p>事前に配付された資料を読めば分かるという話かも知れないが、どういうグループ分けで、論点がどういうことなのかということは、事前に知っておいた方が、共通質問の次のやり取りを進めるにはいいなと以前から感じていた。</p>
事務局	<p>自己評価の様式は、基本的に運営方針、運営要綱、運營業務仕様書に示された内容を網羅的に記載している。これまでも、大変な作業で申し訳ながら、基本的にはお配りした資料を読んでいただき、あらかじめ地域包括支援センターに聞いてみたいことを準備してきた上で、ヒアリングや意見交換に臨んでいただいていた。</p> <p>確かにポイントを絞るということもひとつだが、逆にそれによって意見</p>

	<p>交換の内容を誘導してしまうということもあるかと思う。そこで、共通質問や委員と意見交換してみたいことは効率的に進めるために書いてもらっているが、それ以外の部分は、あらかじめ委員の皆さんに事前に資料を読み込んで来ていただいて、ヒアリングや意見交換に臨んでいただいている。</p>
会長	<p>グループ分けは事前に分かるのか。</p>
事務局	<p>事前にお知らせする。</p>
会長	<p>第1回目の会議のような資料が事前に届くということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
E委員	<p>自己評価の内容について、自分の得意分野は理解できるが、それ以外はたぶん理解ができないと思うし、包括によって甘辛な評価があると思う。</p> <p>一覧表で平均点が出ていると、それと比べてここはなぜ高いのか、低いのかを聞けば評価をしやすいのではないか。</p> <p>また、評価が低いところはどういうことになるのか。</p>
事務局	<p>平均点を出すというのは実際には難しいと思う。確かに、包括によって甘辛な評価があるかもしれないが、それを補うために、これまで運営協議会に諮って様式を改善してきており、5段階の評価だけでなく、取組内容や課題、次年度計画への反映、今後の展望を文章で書いてもらうような様式となっている。</p> <p>基準が定められているものではないので、自己評価が甘いところできている包括で、厳しいところできていない包括ということにもならないので、自己評価票の様式に定めている文章に書かれている内容を含めて見ていただくということになるかと思う。</p>
D委員	<p>標準基準を出すのは難しく、点数を付けるものでもないという話があったが、でも評価をしなければならぬというところで、先程B委員の意見にあったとおり、取り組んだ結果というのが大事になるかと思う。様式の「重点的な取組」のところに結果の欄を設けていただくと評価をしやすくなるのではいか。</p>
B委員	<p>5段階評価では、4あたりが多くておおむね良好な評価となっているので、成果を取り上げて評価し、批判するのではなく意見交換を前向きに行っていくという趣旨であると理解している。ジャッジをするというよりも1年間行ってきたことの成果を確認していく中で、プラスの部分を取り上げて深く聞いてやり取りをしていくということになると思うので、成果が分かる様式の工夫をしていただければと思う。</p>

E委員	評価の項目でここだけはゆずれないとか重要である項目を示してもらえると評価しやすい。各項目ごとに11包括を並べて比較できるようなものがあつたら分かりやすいと思う。
事務局	様式については、この案ということにしつつ、各包括が記載する際に、課題と感じていたことでできたことなどの取組内容やその成果を分かりやすく記載し、作成することをお願いすることをもって臨んでみるということによろしいか。
D委員	ひとつの評価基準として、こういう取組をして、こういった成果があつたんだということが分かれば、それを継続したほうがよいかとかどう見直すのかとかスムーズにやり取りができると思うので、そのように文面を書いていただければよいと思う。
事務局	地域包括支援センターには、自己評価票が運営協議会の資料となることを意識しながら、分かりやすく記載するよう依頼して進めるということで行っていきたいと思う。
B委員	全国平均と比較できるチャート化データも資料として配られるということによろしいか。
事務局	国から提供されるチャート化データも提供する。
B委員	それも活用すればたぶん分かりやすいものになる。
E委員	いかにして評価を見やすくするかということで、目安としてパッと見て分かるようなものがあればよいと思ひ意見を述べさせてもらった。 自己評価はセンター長が行うのか。
事務局	職員全員が関わる。包括支援センターには4職種が配置されており、それぞれ専門的に業務に取り組んでいるので、最終的にはセンター長が確認して提出すると思うが、各取組の内容については、担当者が関わりながら作業してもらっている。
D委員	包括支援センターによってというより、地域性があつて得意なこと不得意なことがあると思う。そういったものだけでも点数を見た時に、一覧になっていて、この地域はここができていてここが難しいんだなと分かりやすいものがあれば、指標として見ていけるものがあると、評価しやすいツールになるのではないかと思う。
F委員	自己評価の様式は、前年度と同じものか。
事務局	文言の整理はあるが軽微な変更だけで、ほぼ同じ様式である。
F委員	前年度の自己評価との比較ができるとヒアリングが進めやすいと思う。

事務局	工夫して自己評価欄に前回の数字を掲載したいと思う。
A委員	各包括は過去の評価を見ることはできるのか。提出したら見れないのか。
事務局	様式をデータで配付し、各包括もデータを保管しているし、実際のヒアリングの場にも持参してくるので、過去の評価は見る事ができる。
G委員	他のセンターのものは見ることはできるのか。
事務局	他のセンターのものは見れない。
A委員	やはり、ヒアリングの際には、前年度の評価との比較ができた方がよいので、そのように工夫していただきたい。
B委員	自己評価欄は数字に○をするのではなく、数字を記入してもらえば、その横に前回の評価欄を設けることができると思う。
事務局	見やすくなるので、そのようにする。
会長	では、自己評価については前回の評価と比較できるように事務局に工夫してもらおうということと、取組の成果を書いてもらうようにするという事によろしいか。
各委員	異議なし。

(2) 審議事項第2号 指定介護予防支援の一部の居宅介護支援事業所への委託について
資料に基づき事務局から説明

会長	ただいまの事務局からの説明に関して、承認ということによろしいか。
各委員	異議なし。

4 閉会